

連載①  
欧米型治療

虫歯や歯周病が発症しない口へ  
世界水準の予防メンテナンスを推進

つきやま歯科医院 専門医療センター 天神

福岡市中央区大名1-14-8 パルビゾン 93 2階 TEL092(738) 8028



築山鉄平センター長

(つきやま・てっぺい)

2001年九州大歯学部卒業、06年米・タフツ大歯学部歯周病インプラント科に留学、卒業時に最優秀臨床賞受賞。10年父が営むつきやま歯科医院(福岡市・井尻)へ。米国歯周病専門医。17年日本人初の米国・ヨーロッパのインプラント認定医。

医)となりました。この留学経験で、格差の要因が予防メンテナンスの普及率にあると分かりました。欧米の歯科医療の土台は、病気を防ぐための予防メンテナンスです。虫歯や歯周病などの病気を発症させない健康な歯や歯ぐきを目指し、症状に応じて一人一人に最適な予防メンテナンスを行います。このような予防を目的に通院する患者さんは、スウェーデンが9割、米国がおよそ8割を占めるのに対して、日本はわずか2%です(グラフ)。

日本人の寿命が伸び続けていますが、高年齢になって歯を大切にしなかったことを悔やむ声を多く聞きます。人の歯は親知らずを除いて全部で28本ありますが、80歳以上で自分の歯がきちんと残っているのは、平均で半数以下の12本程度。この年齢層は半数が総入れ歯です。これに対して、スウェーデンは21本、米国は19本の歯が残っています(注1)。日本人は健康な歯が少なく、ポロポロになっているのです。こうした格差はどうして起きるのでしょうか。

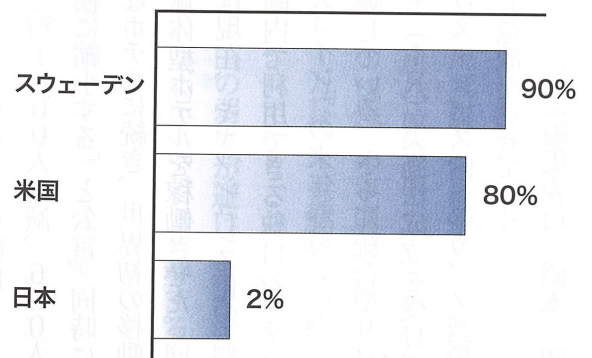
私は、歯学教育で世界最高峰といわれる米国タフツ大歯学部で、国内の大学では経験できない、数百症例の臨床教育や系統立てた知識を学び、日本人では数少ない米国歯周病学会の歯周病・インプラント認定医(専門

日本人の通院の仕方は「悪くなったら行く」が一般的で、国民皆保険という健康保険制度の範囲内で行えることは、主に「削る、詰める、かぶせる」、あるいは、抜いて差し歯か入れ歯にする。いわば「安近短」の手軽な応急処置が定着しています。ところが、このような治療に頼った通院を繰り返していると、欧米のような予防が中心の通院に比べて、歯を失うスピードが約20倍も早くなることがかつています。

日本人の多くは治療した歯の「持ち」が悪く、再治療の時期が早い傾向にあります。

<http://www.fukuoka-tdc.com>

●歯の予防メンテナンスの受診率  
～日本と欧米2カ国との比較



資料元: 歯界展望2005年105巻1号「歯科構造改革論」(熊谷崇著)

例を挙げると、クラウンと言われるかぶせものの日本における生存率は10年予測で56%、欧米は10年で平均90%前後です。ブリッジと言われる歯を失った場合に用いられる治療でも、欧米では10年で85%以上を越えるのに、日本は10年予測で32%と短命です(注2)。国内では、生涯歯を使っていただけのような治療が、十分でないことを示しています。人生100年時代、一生を通じて健康な歯を使い続けるためには、3-6カ月に1回のメンテナンス通院とグローバルスタンダードの質を備えた治療が必要になってきます。

当院では開院以来30年間、3万人以上の患者さんにご来院いただき、現在でも約4000人の患者さんが予防メンテナンスで来院、多くの方が健康な歯で人生を過ごされています。次号以降は、グローバルスタンダードの歯科治療をご紹介したいと思います。

(注1)日本は2011年厚労省調べ、スウェーデンは15年、米国は18年の海外研究論文などから引用  
(注2)口腔衛生会誌(08年58巻1号)の「白歯部修復物の生存期間に関連する要因」(共著)から引用